

7月22日の東京新聞の一面のヘッドライン「二重壁から汚染水」―米 原爆工場漏えい続く―を見て、「アメリカ！おまえもか！」と言わずにいられません。しかも、添えられた地図を見て、シアトルにいる友人はどう思っているだろう？と暗い気持ちで一杯になりました。



2014.7.22 東京新聞より

アメリカ、ワシントン州の南部に核施設ハンフォード・サイトがあります。シアトルから直線距離にして約276キロ位の位置、広大な乾燥地帯です。コロムビア川にそった場所に、この会社は1943年からプルトニウムの生産拠点、すなわち、原発を作って40年以上活動してきました。1987年からは製造をやめ、現在は核廃棄物の処理、貯蔵施設として稼働しています。膨大な量の核廃棄物が残っているはずで、その高レベル放射性廃棄物貯蔵用の巨大地下タンクの二重壁から、汚染水が2011年から漏れ続けているとのこと。最高の技術を持って、安全な保管場所を作ったはずなのに、放射能物質がいつかは地下水に達し、コロムビア川に出る恐れがあるとのこと。

すぐにネットで調べてみたら、汚染水が漏れていることを報告した技術者がインタビューに答えているYouTubeを見ることが出来ました。残念ながら私の英語力では正確なことは把握できなかったのですが、彼は内部告発し、辞職に追い込まれました。会社上層部による隠ぺい、虚偽の報告が続いてきましたが、とうとう、今の報道になりました。

私の住む横浜から福島原発の爆発地点までの直線距離は約250キロです。横浜は離れているから、多少被曝量は少ないのではないかとはいっているのですが、不安です。私は時々、[放射線モニタリング情報/文科省](#)で公開されたデータを利用して都道府県の放射線量を公開しているサイトで各地の放射線量を見ています。まず神奈川県を見て、次に福島県を見ます。横浜はだいたい $0.05 \mu\text{Sv/h}$ が通常の平均値ですが、福島県は平均 $20 \mu\text{Sv/h}$ で、平常値の300倍の数値を示しています。その数字を見るたびに、とても普通の気持ちにはなれません。そんなところで暮らしていいのでしょうか。でも大気、海洋がつながっていて、日本全体に、放射性物質が飛散しているでしょうし、また、農産物、海産物など食べていますから、福島と横浜は距離的には多少離れていても、見えず、匂わず、音もしない放射性物質は、忍び寄って来ていて、私も内部被ばくしていることは間違いなしでしょう。目に見えないから呑気にしているのですね。

東日本大震災が起きる3年前に、原子力安全基盤機構（2014年3月より 原子力規制委員会）が原発事故はどのように起こるか説明するために作成したDVDがあります。それによれば、「電源を失った原子炉は30分で炉心溶融が始まり、1時間でメルトダウンが起こり、3時間でメルトスルーする」とシミュレーションしていたのです。まさか、現実になると考えなかったのでしょうか。専門家は分かっていたのです。政府は「ただちに健康に害がない」などと言いました。私は科学的な知識がないため、さまざまな数値を見ても、その危険性を実感できないのが残念ですが、現実には福島原発は爆発して、莫大な放射性物質をまき散らしてしまっただけです。天も地も水も汚染し、汚染水の漏えいを阻止できていないのです。これだけ国民の命、生活を破壊して、いまだに原発を再稼働させようという政府、企業、それに依存する人々は、どのように補償するつもりですか。